

# タルソス：パウロの出自と埋められない年月

パウロとタルソスの関係について、何が分かりますか。

使徒言行録はギリキアのタルソスをパウロの出生地とし、後にバルナバがアンティオキアへ招く前にも、そこにいたと記します。残された本文は、幼少期、タルソスでの教育、その間の各年の活動を連続して説明していません。

## 出生地は幼少期の全記録ではない

使徒言行録でパウロは、タルソス出身のユダヤ人で、エルサレムで育ち教育を受けたと述べます。フィリピの信徒への手紙はユダヤ人としての血筋と形成を強調します。併せて読むと、ギリシア的なパウロとユダヤ人としてのパウロを単純に対立させられません。資料はタルソスで通った学校を挙げず、少年時代の教師、友人、影響を与えた会話を創作する根拠も与えません。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 21章39節・使徒言行録 22章3節・フィリピの信徒への手紙 3章4～6節

出典: acts, letters

## 帰郷と新しい結び付き

エルサレムで危険にさらされた後、信徒はサウロをタルソスへ送り出します。ガラテヤの信徒への手紙はシリアとギリキアでの活動を述べ、ユダヤの諸教会が変わった証しを聞いたと伝えます。使徒言行録は後に、バルナバがタルソスで彼を探し、アンティオキアへ連れたと記します。大まかな順序は示されますが、多くの活動の期間と詳細は不明です。沈黙を架空の訓練課程に変えてはいけません。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 9章28～30節・ガラテヤの信徒への手紙 1章21～24節・使徒言行録 11章25～26節

出典: acts, letters, chronology

## 作り話によらずに形成を考える

パウロ自身が強調するのは、かつて迫害した信仰を今は宣べ伝えているという変化です。背景は重要ですが、資料は予測可能な経歴より、キリストにおける神の働きに変化の中心を置きます。タルソスは出自と目立たない年月に忍耐強く目を向けさせます。教える際は、分かっている場所を地図で結びつつ、記録のない経験はあえて絵にしないか、芸術的な場面を再構成と明記できます。

聖書の参照箇所: ガラテヤの信徒への手紙 1章13～24節・コリントの信徒への手紙一 15章8～10節

出典: letters

## 出典

- [acts] Acts 7–28; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/ACT.htm>
- [letters] Romans through Philemon; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/>
- [chronology] Pauline Letters chronology: Acts, the letters, dated external anchors, and explicitly qualified reconstructions. <https://paulineletters.com/explore/timeline>

---

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters・CC BY 4.0・<https://paulineletters.com/ja/explore/resources/tarsus>